

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和5年度～令和6年度）
研究開発課題名	DDS技術を活用した経皮投与型ペプチド性乳がん治療薬の開発研究
代表機関名	国立大学法人徳島大学大学院
研究開発代表者名	大高 章

総合評価：優れている

【評価コメント】

本研究は、これまでペプチド性乳がん治療薬として開発してきた stERAD を改良した dstERAP の合成法確立、大量供給体制構築を行うとともに、ER 陽性乳がんだけでなくトリプルネガティブ乳がんに対する有効性の検討を行い、尾静脈投与にとどまらず、経皮投与によっても有効性を示し、成果を上げている。また、薬物動態解析の結果、イオン液体によって皮膚浸透性が向上し、全身循環に移行することも把握できており、有益な連携体制が構築されたと評価する。

ただし、今回の研究で医薬品開発に進めるためには幾つかの課題があり、基礎研究の域を脱しない感があるが、本連携体制も活用し、まずは効果の高い静脈内投与での社会実装化を目指して企業と連携して医薬品開発段階へ進められることを希望する。一方、ペプチドの経皮吸収は静脈内投与より効果が弱い点はあるが、画期的で、他の展開も期待できる成果でもあり、投与量や塗布・貼付方法の改良化も含め、検討を継続されることを望む。

以上